

カザフスタンのアルマトイ市の第一次・第二次五カ 年計画におけるソビエト政権下の都市計画・建築様 式に関する研究動向と課題：ソビエト・カザフスタ ンの一般建築史 その1

諸喜田, 真
フリーランス

<https://doi.org/10.15017/7217539>

出版情報：都市・建築学研究. 46, pp.39-54, 2024-07-15. Faculty of Human-Environment Studies,
Kyushu University
バージョン：
権利関係：



カザフスタンのアルマトイ市の第一次・第二次五カ年計画におけるソビエト政権下の都市計画・建築様式に関する研究動向と課題
(ソビエト・カザフスタンの一般建築史 その1)
Research Trends and Issues on Urban Planning and Architectural Styles under the Soviet Regime in the First and Second Five-Year Plans in Almaty, Kazakhstan
(General Architectural History of Soviet Kazakhstan, Part 1)

諸喜田 真*
Shin Shokita

The First Five-Year Plan (1928-1932) saw the relocation of Kazakhstan's capital to Alma-Ata, where the "Great Alma-Ata" was planned and constructed in the Constructivist style. After Stalin's power from 1922, Constructivism fell out of favor, shifting to Classical architecture gradually. During the Second Five-Year Plan (1933-1937), architecture in Alma-Ata shifted away from concrete to wood or brick structure, with Art Deco style. The rejection of formalism, including Constructivism, came in 1935, promoting socialist realism and exploration of cultural heritage. After 1935, new buildings had been built by classical style, but still Constructivist features remained in the planning.

Keywords : *Soviet architecture, Urban design, Kazakhstan, Almaty, Constructivism, Post constructivism*
ソ連建築, 都市計画, カザフスタン, アルマトイ, 構成主義, ポスト構成主義

1. はじめに

1.1 研究の背景

1917年の十月革命から1937年の第一回全ソ連建築家同盟総会までに行われた1928年から1932年の第一次五カ年計画, 1933年から1937年の第二次五カ年計画におけるソ連時代のカザフスタンのアルマトイの建築に関する論文はこれまでに1970年のベクリムジャン・グラウディノフ「Пути развития советской архитектуры Казахстана, 1920-1970 (カザフスタンにおけるソビエト建築の発展の道筋, 1920-1970)」, 1985年のアブライ・カルピコフ「Архитектура Советского Казахстана 1930 -1950-х годов (1930年ー1950年代のソビエト・カザフスタンの建築)」, 1988年のエリザベータ・マリノフスカヤ「Формирование профессиональной архитектуры Казахстана (カザフスタンにおける専門的建築の形成)」, 2004年のコンスタンチン・サモイロフ「Архитектура Казахстана XX века: Развитие формообразования (20世紀のカザフスタンの建築: 造形形成の発展)」, 2015年のオクサナ・プリエメ

ツ「Развитие архитектурного орнамента в зодчестве Казахстана XX - начала XXI века (например г. Алматы)

(20~21世紀初頭のカザフスタンの建築における建築装飾の発展《アルマトイを例として》)」があるが, グラウディノフの論文は十月革命以降のソ連時代のカザフスタンの都市計画・住宅・工業・公共建築に関する一般通史であり, サモイロフの論文は20世紀のカザフスタンの建築の外観, 特にファサードを写真から分析し時代ごとに類型化し建築様式の傾向を明らかにしたものであるが平面計画やボリューム構成においては検証されていない。プリエメツの論文は20~21世紀初頭のアルマトイの建築装飾の研究でありサモイロフと同様の分析手法である。また前述のマリノフスカヤによる2014年の「Репрессированные польские архитекторы в Казахстане (カザフスタンで抑圧されたポーランドの建築家)」があるが, 抑圧されたポーランド人建築家 Ya.スタンケビッチに関するものである。

この時代の建築に関する書籍としてソ連時代に出版されたものは, 1937年のM.N.サウモフ「Алма-Ата. Планировка и реконструкция (アルマ・アタ 計画と再建)」, 1950年のD.D.バラギン, I.I.ペロツェルコフスキー

* フリーランス

「Архитектура городов СССР. - Алма-Ата (ソ連の都市の建築 - アルマ・アタ)」, 1953 年の М.М.メンディクロフ「Архитектура города Алма-Аты (アルマ・アタ市の建築)」, 1957 年の Т.К.басенов「Орнамент Казахстана в архитектуре (建築におけるカザフスタンの装飾)」, 1974 年のベクリムジャン・グラウディノフ「Архитектура Советского Казахстана (ソビエト・カザフスタンの建築)」, 1987 年のグラウディノフ, М.Г.сейдалинов, А.С.カルピков「Архитектура Советского Казахстана (ソビエト・カザフスタンの建築)」等がありソ連の崩壊を経て独立後に出版された書籍は, 1998 年の А.К.капанов, С.К.паймагамбетов「Алматы: архитектура и градостроительство (アルマトイ: 建築と都市計画)」, 2004 年のコンスタンチン・サモイロフ「Архитектура Казахстана XX века (Развитие архитектурно - художественных форм) (20 世紀のカザフスタンの建築 (建築と芸術形式の発展))」, 2006 年の М.М.ヌルпейсов, Е.Г.マリノフスカヤ「СВОД памятников истории и культуры г.Алматы (年代記 アルマトイの歴史・文化的記念碑)」, 2008 年の В.トゥヤクバエフ「Алматы Древний Средневековый колониальный советский этапы урбанизации (アルマトイ ソビエトの都市化段階 古代・中世 植民地時代)」, 2018 年の Е.Г.マリノフスカヤ「Памятник современной архитектуры (近代建築の記念碑)」, 同 2018 年の Е.Г.マリノフスカヤ「Репрессированная архитектура – сталинские новостройки, творчество и судьбы архитекторов (抑圧された建築 – スターリン主義の新しい建築, 創造性と建築家の運命)」, 2019 年のベクリムジャン・グラウディノフ「Развитие Архитектуры Казахстана в Эпоху Социализма (社会主義時代のカザフスタンにおける建築の発展)」等が挙げられるが, サウモフの著書はアルマ・アタの都市計画と建築に関する物であり, バラギン, ペロツェルコフスキーの著書も同様で, メンディクロフの著書も同様だがメンディクロフによる同時代の観点からの批評が論じられている. バセノフの著書はカザフスタンの伝統的な装飾の研究と建築における応用例に関するものであり, グラウディノフの 1974 年の著書は前述の 1970 年の論文が書籍化された一般建築史であり各共和国で同様の書籍が同時期に刊行されている. その後 1987 年に刊行された著書は 1970 年の内容に加筆しそれ以降の都市計画・建築に関するものであり 87 年前後に各共和国ごとに出版されているが, 2019 年の著書は 1987 年の著書に若干の加筆が行われたもので, これらは共通して一般建築史であり表層的な内容で共産党の政策については一部言及されているが時代背景や政策の背景についてはほぼ言及されていない. カパンов, паймагамбетовによる著書はアルマトイの都市計画と建築に関するものであるが簡略的な概説である. サモイロフの著書は前述の論文が書

籍化されたものであり, トゥヤクバエフの著書も都市計画と建築に関する概説であり, Нурпейсов, Мариновスカヤの著書は各時代の都市計画の動向や建築における時代性についての記述があり, これが基になり後の 2018 年のマリノフスカヤの著書「近代建築の記念碑」はアーカイブの資料を基に 1920-1950 年代のアルマ・アタの建築状況に関して更に詳細に記述がなされているがモスクワなどの中央との関係や政策の背景については記述されていない. よってアルマ・アタの建築における動向や変遷などに関してその理由やソ連全体との関連した背景が殆ど見いだせない.

1.2 研究の目的と方法

カザフスタンのアルマトイにおけるソビエト政権樹立から 1937 年までの第一次・第二次五カ年計画におけるソビエト時代の建築においてファサードにおける様式の傾向はサモイロフの論文により明らかにされているが, では構成主義がどのようにアルマ・アタで展開されていたか, どのようにしてポスト構成主義^{注1)}と呼ばれる様式へと移行されていたのか明らかにされていない. またファサードのみでボリューム構成や平面構成・計画についての分析は行われておらずこれらを明らかにする必要がある. また都市計画についても研究が行われていない.

分析の方法として過去の研究論文やこれまで出版されてきた書籍・雑誌などの二次資料をレビューし, 筆者自身が撮影した写真も活用してソ連の第一次・第二次五カ年計画においてどのような政策・決議が行われ都市計画・建築建設が実行されていたのか, また当時建築家の発言や言説・論考がその後の都市計画・建築にどのような影響をもたらしたのかを考察し都市計画・建築様式, ボリューム構成や平面構成・計画の変遷を本稿にて明らかにしていく.

また論文や二次資料をレビューしながら明らかにされていない項目を抽出し今後一次資料を基にどのような研究が必要かを考察していく.

2. ヴェールヌイ市の都市計画

「ロシアのツァーリ政権により 1854 年にマラヤ・アルマティンカ川の左岸に要塞が建設され, 1855 年にシベリア・コサックが最初の入植者として到着し要塞の南西部に最初の集落を築き, 後の村落への基盤となる長方形の格子システムの計画を導入し教会や病院, 住宅などが建設されていた(筆者訳)」^{文献1)}. 「この基盤状システムは 18~19 世紀にかけてロシアの各都市で行われていた計画手法が適用された(筆者訳)」^{文献2)}. 1867 年に要塞はヴェールヌイ市となり^{文献3)}, 「1879 年に市の新たな草案が作られ既存の格子システムを継承しながら南西の方向への拡張が計画され, プーシキン公園^{注2)}が中心地と

なり学校や軍事施設が建設された（筆者訳）」^{文献4)}。最初の公式な計画は1884年サンクトペテルブルクで承認された技術者ジュコフスキーとされ、1909年にも計画が策定された^{文献5)}（図1）。

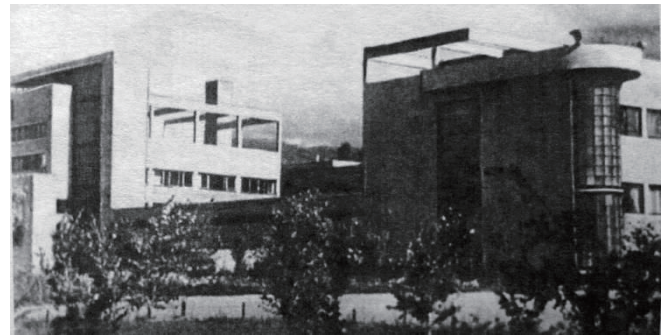


（図1）1909年のヴェールヌイ市の都市計画図^{出典1)}

3. 第一次五カ年計画（1928—1932）の都市計画と建築

十月革命後の1921年ヴェールヌイ市はアルマ・アタと改名され^{文献6)}、共和国の経済再建のため1926年ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国人民委員会の労働防衛評議会は第一次五カ年計画にてトルキスタン・シベリア鉄道の建設を決議し、それに伴い1927年にカザフ自治ソビエト社会主義共和国の首都をクズ・オルダからアルマ・アタ市に移転することが決議され、1929年に首都としての機能が開始された^{文献7)}。「首都移転の決議に伴い五カ年計画による『大アルマ・アタ』の建設が計画され当初共和国の指導者たちは以前の中心地に新たな行政施設を建設するよう主張したが、共和国の建築家たちは革命前の建築群や公園の解体に反対し、モスクワの建築家は1880年代の都市計画を基盤に土木的観点や気候性を考慮に入れ中心地を南西に移設するよう提案した（筆者訳）」^{文献8)}。1932年にモスクワの都市計画・開発などを行う研究所ギプロゴールのレニングラード支店レンギプロゴールによって^{文献9)}新たな都市計画が行われ、新たな中心地区、以前の中心地から西方向への開発の拡張、直交する南北方向への道路の整備が以前からの計画を引継ぎ碁盤状の都市が計画された。それはマラヤ・アルマティンカ川からキロフとコムソモルスカヤ^{注3)}通りに沿って線形に西側に拡張していく緑地帯としての都市計画であったが、この計画においてグラウディノフは、「モスクワの建築家N.ミリューチンの影響が見受けられる（筆者訳）」とした^{文献10)}。その区域であるキロフ通りに沿って南北を貫くパンフィロフ通りとヴォクザルナヤ通り^{注4)}を行政区域とし行政機能を持った新たな施設の建設が計画された^{文献11)}。

「1927年カザフ ASSR の総督府に対する設計競技がモスクワ建築協会主催により審査員に建築家のA.ヴェスニン、A.シュージェフ^{注5)}らを迎えて行われM.ギンズブルグが1等を獲得し、2位にG.グリエフ、G.グレビッチ、K.ソロモノフ、3位にI.レオニドフ、4位にP.ブロヒン・A.ザルツマン、5位にD.フリードマンが選出されたが（筆者訳）」^{文献12)}、設計にI.ミリニスが参加し1931年に完成した（写真1）。



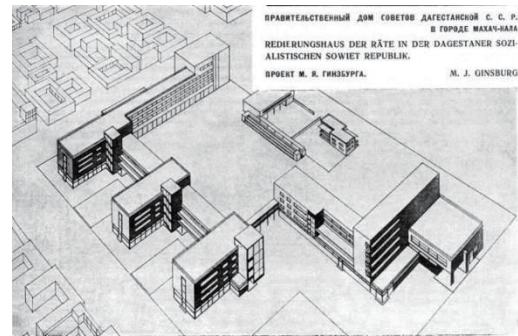
（写真1）カザフ ASSR の総督府，1931年^{出典2)}

1892年ミンスクで生まれたギンズブルグは1917年にリガの工科大学で学んだ後、クリミアで働き地域芸術の研究を行った。1923年にヴフテマスの教授を務め、1923年に著作「建築におけるリズム」、1924年に「様式と時代」を公刊しており構成主義を代表する建築家で、代表作に前述のミリニスと共に設計したドム・ナルコムフィンと呼ばれる1930年に完成したモスクワの財務委員会の職員住宅が挙げられるが、前述の設計競技の前の1926年にウズベキスタンのブハラの住宅建築の調査に訪れこれらの計画的配置、気候や地域的特性を分析し^{文献13)}、「ソ連における国家的建築とはその地域性や新たな社会主義を考慮することが正しい解決策（筆者訳）」とし、伝統的な民族装飾の復活を批判した^{文献14)}。これらを踏まえカザフスタンの気候や風土に基づいた設計案を作成した^{文献15)}が、それはL字型による機能に応じた分散配置によって構成された凹型の平面構成で、それにより生み出される植栽と親水空間を配した中庭が構築され、「屋上には日除けのパーゴラと水盤^{注6)}を設けるよう計画された

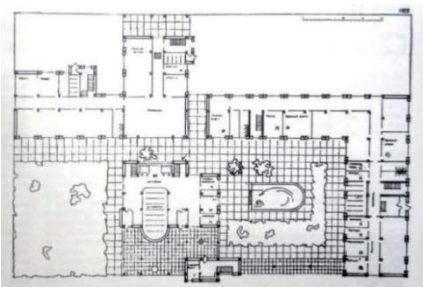
（筆者訳）」^{文献16)}。ソ連南部地域特有の強い日差しを防ぐために建物の入り口は北側に設置され、建物内の職務室などは北側や中庭に向くように配置され南側には片廊下が配置されるよう計画された（図2、3、4）。また「1階部分がピロティとなり大衆に解放されたエントランス、渡り廊下のブリッジの下のピロティを通じて外部の都市空間と接続された中庭、円形に突き出された二階部分のオープンテラスなど大衆に開かれた空間構成の形成を試み、正面の階段室のガラスのL型フレームは中央アジアの伝統建築の特徴でもあるペシュタク^{注7)}を連想させる

(筆者訳)」とマリノフスカヤは分析した^{文献17)}が、ギンズブルグは1926年にダゲスタンのマハチ・カラ市の「ソヴィエトの家」のプロジェクトにおいてメインボリュームに階段室である立方体のボリュームが食い込んだデザインや分棟配置による広場の形成とピロティ形式のブリッジによる連結などの手法を取り入れた提案を行っており(図5)^{文献18)}、その手法をアルマ・アタの総督府にも取り入れている。この分棟をブリッジで連結していく手法はバウハウス校舎の影響と考えられるが、これらの方法は鉄筋コンクリートラーメン構造より実現が可能となった。

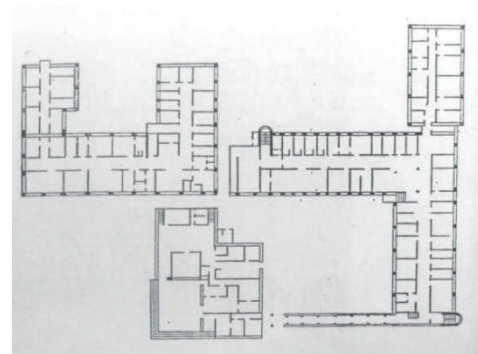
強く異議を唱えた^{文献19)}。



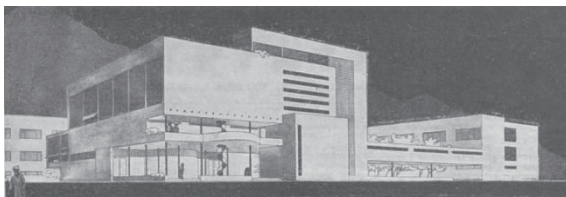
(図5) マハチ・カラ市の「ソヴィエトの家」 出典6)



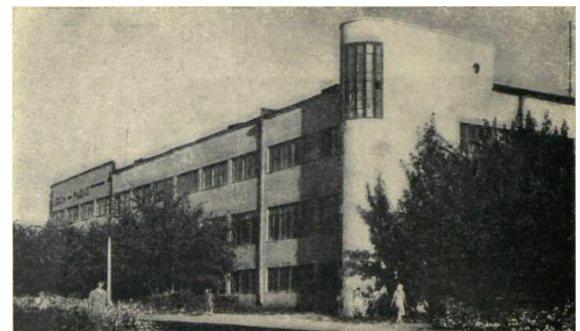
(図2) 総督府計画案一階平面図(図版上が南) 出典3)



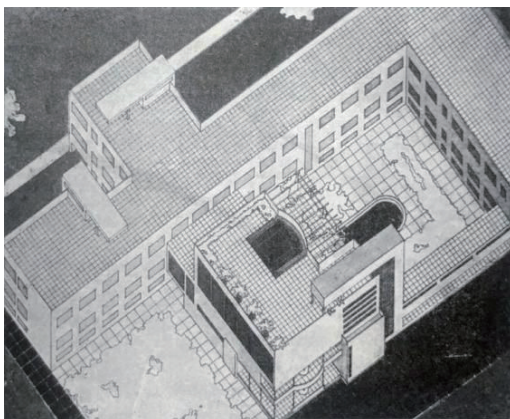
(図6) 総督府一階平面図(図版上が南) 出典7)



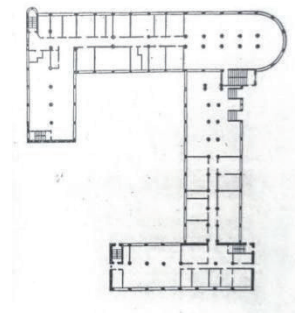
(図3) 総督府計画案 出典4)



(写真2) 通信局, 1934年 出典8)



(図4) 総督府計画案アクソメ図 出典5)



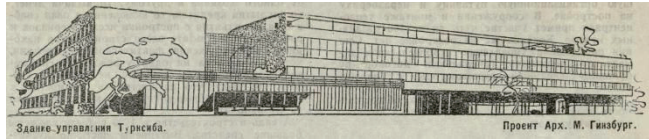
(図7) 通信局平面図 出典9)

しかし完成した建物は方廊下ではなく中廊下になっており(図6)ギンズブルグらの設計図とは異なっており、ギンズブルグは「カザフスタンの人民委員会に助手を派遣して管理を行うことを申し出たにもかかわらず拒否され、実現した建物は例えば外観は白である予定が薄暗い灰色で内部の色彩計画も異なっており、建築家が建物の竣工まで責任を持って直接関わるべきだ(筆者訳)」と

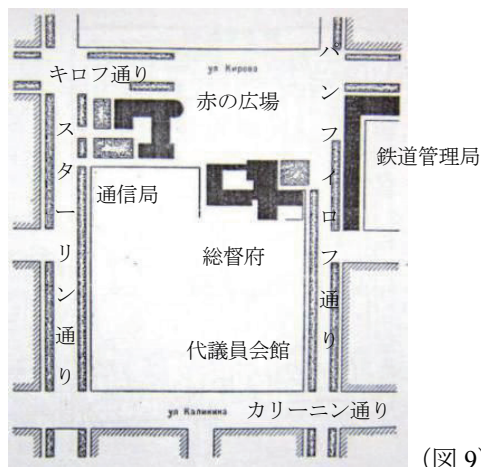
この総督府の西側に同じくM.ギンズブルグとI.ミリニスの設計によって通信局(写真2)が1934年に完成した。これまではG. G.ゲラシモフの設計^{文献20)}とされていたが、ゲラシモフは現場管理を行っていた^{文献21)}とマリノフスカヤによって判明した。東側にトルキスタン・シベリア

鉄道の管理局(図8)がギンズブルグの設計によって1934年にそれぞれ鉄筋コンクリート造^{文献22,23)}による構成主義の様式で建設された。通信局、鉄道管理局共に平面構成はL字型となっている(図7,9)。

総督府と通信局、鉄道管理局の建築はアンサンブルを形成し、その前のキロフ通りは軍隊のパレードなどが行われる「赤の広場」(図9)となった^{文献24)}。



(図8) 鉄道管理局透視図^{出典10)}



(図9) 赤の広場^{出典11)}

総督府の南側に代議員会館(写真3)、バイセイτροφ通りに人民委員会病院が建設されたが、マリノフスカヤはギンズブルグの主導によるものとした^{文献25)}。ただし後の著書でマリノフスカヤは代議員会館はG.クシュナレンコの設計で1932年に完成としており^{文献26)}、トゥヤクバエワによれば、病院はレニングラードの建築家A.ゲゲーロの設計により1933年に完成^{文献27)}としているが、それまでのゲゲーロの活動を見ればその可能性は低いのではないかと考えられる。

先述の行政施設と共に赤の広場東側と交差するパンフィロフ通り沿いに北に向かって東側に国家銀行がV.ルボフ、A.リティフ、D.フリードマンの設計により鉄筋コンクリート造で1934年に^{文献28)}、水資源管理省の建物(写真4)がモスクワの建築家F.ミハイロフスキー、A.ウルブリフの設計により1934年に^{文献29)}、人民委員部の建物(写真5)がG.コロスチンの設計により1933年にラーメン構造で^{文献30)}構成主義の様式で建設された。水資源管理省、人民委員部に関しては道路側の前面部分はシンメトリーで構成され、垂直性を強調する付柱・帯状のアーキトレーブが取り付けられており古典様式もしくはアール・デコの要素が見られる。水資源管理省、人民委員部

の建物は壁はレンガ造で建設された^{文献31,32)}。



(写真3) 代議員会館, 1932年^{出典12)}



(写真4) 水資源管理省, 1934年^{出典13)}



(写真5) 人民委員部の建物, 1933年^{出典14)}

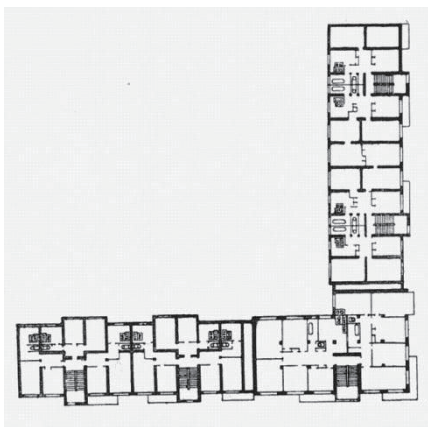
パンフィロフ通りを中心軸にして東西に様々な施設が建設されていき、東側のフルマノフ通りとカリーニン通り^{注8)}交差点に共産党中央委員会従業員用の住宅団地No.1(写真6)がV.ルボフ、V.トヴェルドフレボフの設計により構成主義の様式で1932年に建設された^{文献33)}。メンディクロフによれば1934年竣工^{文献34)}と記述されているが、平面図(図10)を見る限りL字型の平面構成ではあるが角部部分と上部・左側の部屋構成が異なり、壁

厚も異なる。また立面構成もフルマノフ通りからの写真では階高が異なり^{文献35)}、構造においてもL字角部部分は図面上に柱が確認でき、鉄筋コンクリート^{文献36)}であることから角部部分が1932年に完成した後に両翼部分を増築した可能性も考えられる。

更に角部部分は台所が一つであり共産党中央委員会従業員用の住宅でもあったことから当時モスクワなどでも建設されていたコムナルカと呼ばれた「共同住宅」であった可能性がある。1930年5月にボリシェヴィキソ連共産党中央委員会によって「日常生活再建の取り組みについて」が決議され、「これまでの形式主義的な共同住宅による日常生活の社会化が批判され^{文献37)}、1932年にソ連で導入された新たな規則では各アパートにバスルームの設置、階段室を中心としたユニットの繰り返しの使用が行われた^{文献38)}（筆者訳）」が、これらを考慮するとまず1932年に共同住宅として建設され、共産党の決議や新たな規則の導入に従って両端部が1934年に増築された可能性も考えられる。



(写真6) 住宅団地 No.1, 1932 年^{出典15)}



(図10) 住宅団地 No.1 三階平面図^{出典16)}

スターリン通り西側のジェルジェンスキー通り^{注9)}沿いに通称 GPU の国家政治保安部や通称 NKVD の内務人民委員部の関連施設であるダイナモスタジアムとモスクワの建築家 K. B. ドゥブロフスキー^{文献39)}の設計によりガレージ・食堂が共に1932年に、学校第25号が I. ヴォルシャニクの設計により1936年に建設され、「NKVD 街」と呼ばれる地区が構成された^{文献40)}。その GPU のオフィス(写真7)は1932年に D. フリードマンの設計によって鉄

筋コンクリート造で建設されたが^{文献41)}、サモイロフは1934年とし^{文献42)}、マリノフスカヤは別の著書で1929年とする写真を掲載している^{文献43)}が、共産党中央委員会の総督府の竣工が1931年でありそれ以前に建設された可能性は極めて低いのではないかと考えられる。

その南側には NKVD の収容センターの建物(写真8)が同じく D. フリードマンの設計によって1934年に建設されたが^{文献44)}、モスクワの建築研究者ハーン・マゴメドフの著書『ウラジーミル・クリンスキー』にてアルマ・アタの管理棟としてこれらの GPU のオフィスと NKVD の収容センターに類似した立面図(図11)が掲載されており1920年代後半と記載されているが^{文献45)}、クリンスキーのそれまでの設計デザインを鑑みるとクリンスキーによる設計の可能性は低いのではないかと考えられる。

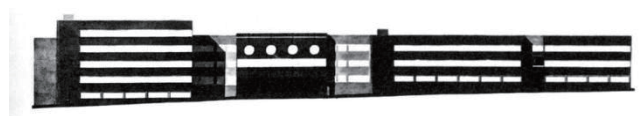
D. フリードマンは、総督府の設計競技にも参加しておりモスクワ建築家協会主催の様々な設計競技に参加しヴフテマスでも教鞭を執っていたモスクワの建築家ダニエル・フリードマンと思われるが同一人物なのか今のところ不詳である。



(写真7) GPU のオフィス, 1932 年^{出典17)}



(写真8) NKVD の収容センター, 1934 年(筆者撮影)



(図11) アルマ・アタの管理棟, 1920 年代後半^{出典18)}

GPU のオフィスの斜め向かいに GPU の従業員用のクラブ劇場(写真9)が標準設計に従って D. フリードマンの設計によって1933年にラーメン構造とレンガ造の混

構造で建設されたが^{文献46)}、グラウディノフによればV. ブロフツェフ、T.バセノフの設計によって1932年から35年にかけて建設されたとしており^{文献47)}、マリノフスカヤは別の著書で1929年の写真を掲載しているが^{文献48)}、GPUのオフィスと同様の理由で1933年以降と考えられる。

当時ソ連にて数多くの労働者クラブが建設されたが、「文化教育施設としての役割だけでなく新たな集団的生活様式のプロパガンダを広めるために活用され、1926年ソビエト政権は『労働者クラブ』の建設に関する政令を發表し数多くの労働者クラブがソビエト連邦各地に建設されていった」^{文献49)}。このGPUの従業員用のクラブ劇場は「長方形の劇場と南側前方にアルマ・アタの気候を考慮してバルコニーを設けた四分の一円の両サイドに矩形のボリュームの階段室を配した構成（筆者訳）」^{文献50)}でA.ゲゲーロの設計によって1927年にレニングラードに建設されたゴーリキ文化宮殿（写真10）の影響がグラウディノフにより指摘されている^{文献51)}がマリノフスカヤは標準設計に従ったプロジェクトとしており、当時ソ連においては様々な労働団体によりクラブ建築の標準プロジェクト用のアルバムが出版されており^{文献52)}、それらのプロジェクトに従って建設された可能性がある。



（写真9）GPUの従業員のクラブ劇場，1933年^{出典19)}



（写真10）ゴーリキ文化宮殿，1927年^{出典20)}

4. 第二次五カ年計画（1933—1937）の建築

4.1 スターリン就任後の政治・建築界の状況

1922年にヨシフ・スターリンが共産党書記長に就任し1929年にスターリン政権が確立されが、1931年モスクワ

の共産党大会にて側近のカガノビッチは「簡略化された粗雑なデザインがプロレタリア建築様式と思っている人もいるが、プロレタリアートは美しい家に住むことを欲し、都市・建築もまた欧米や他の都市より美しいものにすべき（筆者訳）」と演説を行い^{文献53)}、構成主義を批判しその後のソビエト建築・都市計画の方向性を決定づけるものであった^{文献54)}。

「1931年のポリシェヴィキ共産党中央委員会6月総会の決定『モスクワの都市経済とソ連における都市経済の発展について』の決定に従いモスクワの一般計画を策定するため建築計画局が1932年1月に設立され、3月にはソビエト宮殿の設計競技第一ラウンドが開催されたが、ソビエト宮殿は突出した記念碑性が求められモスクワの都市計画と連携して行われたことは重要なことであった^{文献55)}（筆者訳）」．コンペの評議会は「古典的な建築の新しい技術とより優れた技術の両方を使用することに探求が向けられるべき（筆者訳）」と締めくくった^{文献56)}。

1932年4月23日のポリシェヴィキ共産党中央委員会において「文学および芸術組織の再編」が決議され芸術と文学における統一的な創作組合が創設されたが^{文献57)}、5月の『文学官報』において初めて「社会主義リアリズム」という言葉が登場しソ連における文学手法として宣言され^{文献58)}、7月4日には様々な建築団体が全ソ連建築家同盟に統合するよう決定が下されたが、構成主義の「箱型住宅」が徹底的に否定され「『機能的』であることが建築における芸術性を低下させた（筆者訳）」とし、「ソ連の建築における創造的発展には過去の建築遺産を批判的に同化することが重要で新たな社会主義の様式を促進させるべきで、ブルジョア折衷主義^{注10)}である古い歴史的様式の単なる復興に対して断固抵抗しなくてはならない（筆者訳）」と宣言された。また「建築家は現場まで足を運びディテールまでの実現まで責任を持つべきだ（筆者訳）」とされ「全ソ連建築家同盟とその機関紙である『Архитектура СССР（ソ連の建築）（筆者訳）』の活動はソ連建築の闘争のために行わなければならない（筆者訳）」とされた^{文献59)}。

同年の7月にはモスクワに建設されたI.ジョルトフスキーのモホヴァヤ通りの住宅が公開され^{文献60)}1934年に完成したが（写真11）、この建築の外観は「『盛期ルネッサンス』からインスピレーションを得てパッラーディオのスタイルを現代建築に適応し、かつ社会主義首都の建築実践に過去の文化の最も優れた代表の一つを導入した（筆者訳）」として絶賛され^{文献61)}、後にパッラーディオのパラッツォ・ヴァルマラーナ^{文献62)}やロジッア・デル・カピタニアート^{文献63)}を参照したとされたが、このモホヴァヤ通りの住宅は同時代の住宅建築に大きな影響を与えた^{文献64)}。



(写真 11) モホヴァヤ通りの住宅, 1934 年(出典 21)

「1933 年に建築科学の発展と高等資格を持つ建築家の育成のためソ連建築アカデミーが設立されたが、アカデミー内の出版社が建築の理論と歴史に関する多数の古典的な著書を出版しこれらが若い建築家に与えた影響は大きかった(筆者訳) 文献 65)」。またモホヴァヤ通りの住宅の建設後、ソ連の建築雑誌や書籍でもイタリア・ルネサンス建築の特集が数多く組まれていった。

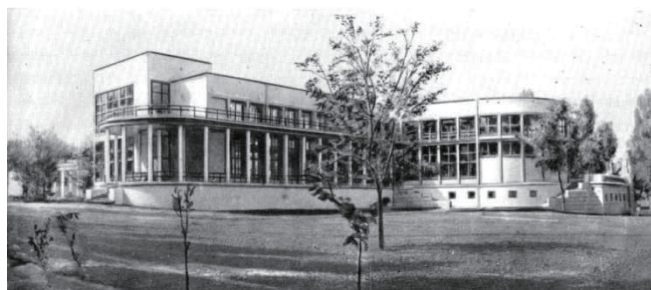
「1935 年 5 月にレニングラードで開催された全連合創造的建築家会議においてイデオロギーの統合が謳われソ連の建築界の新たな段階への移行が示された。『形式主義と社会主義リアリズム』、『文化遺産の習熟』、『アンサンブル』等についての討議が行われ形式主義に対する批判に伴って『文化遺産を研究し習得』という課題が取り上げられた(筆者訳) 文献 66)」。また「『工業技術の習得, 最新の技術材料や地元資材の活用, 建築技術の十分な理解』という課題も議題に上がり、『軽工業・地場産業人民委員会は高品質の材料と部品を業界に供給するため膨大な地元資源を含むあらゆる生産能力を活用すべき』(筆者訳) 文献 67)とされた。さらに建築教育についても議論され「将来の建築家が偉大な建築作品や世界中の建築記念碑への学習が組織化されておらず地方の建築学部の本格的な再編が必要(筆者訳) 文献 68)」。

4.2 第二次五カ年計画(1933-1937)における公共建築

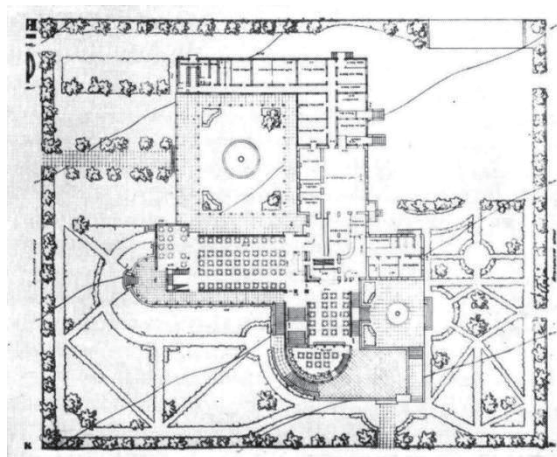
カーニン通りから 1 ブロック南側, スターリン通り沿いにカズクライ組合の食堂施設であるレストラン No.1 がレニングラードの A.ゲゲーロ, D.クリチェフスキーの設計によって 1933 年に建設された(写真 12)。

1930 年のソ連人民委員会の決議「ケータリングの発展について」において、「『近い将来, 公共のケータリングはソ連における大衆の物質的幸福および労働条件を改善するための最も重要な手段の一つで, それは愚かで衰弱しているひとり親家庭からのゆるやかな解放と働く女

性の解放につながり社会主義的建設に参加する機会を与える』とされ, 公共のケータリングサービスは社会主義において必要不可欠なプログラムと考えられていた(筆者訳) 文献 69)」。ゲゲーロは「カザフ SSR 人民委員会の建設組織から提供されたアルタイのカラ松を用いた木造ラーメン構造による建物の設計を行いテラスやバルコニー, 屋外に水盤を配したパティオを設けた(筆者訳) 文献 70)」。マリノフスカヤは「設計に当たってカザフの伝統的建築と気候性を分析し構成主義特有のデザイン形態を用いながら, カザフ民族の伝統的住居であったユルタの木造構造システムを適用しユルタの骨組みに被せている開閉が可能なフェルトと同様のシステムとして開閉が可能な木製サッシのガラス窓を適用した(筆者訳) 文献 71)」。



(写真 12) レストラン No.1, 1933 年(出典 22)

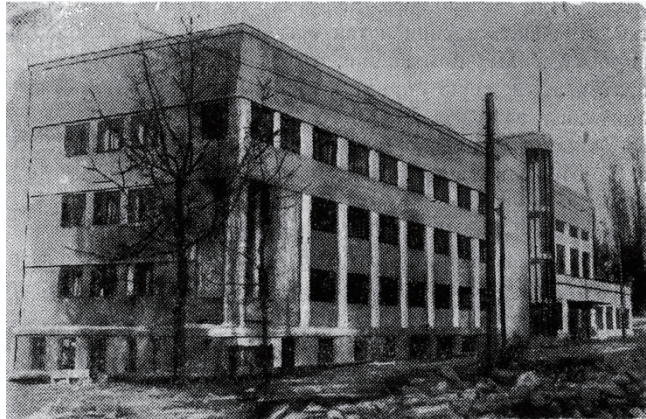


(図 12) レストラン No.1 一階平面図(出典 23)

平面計画(図 12)においては通信局などの構成主義建築と同様の計画だが総督邸のように囲まれた中庭に噴水を設け地域性が考慮されている。また「ユルタの木造構造システムが適用された」とマリノフスカヤは指摘しているがユルタの下部構造はラチス材でありラーメン構造にはなっておらず, 木造ラーメン構造をテラスに露出していることや, 前述の建築界における様式の移行から, 構成主義の形式を保持しつつ古典様式又は中央アジアの伝統建築を模した柱を適応した可能性も考えられる。

1933 年にヴィノグラドバ通り^{注 11)}にホテル No.4 (写真

13) が V.トヴェルドフレボフの設計によって木造ラーメン構造で建設されたが^{文献 72)}、半シリンダー状の階段室が前面に設けられており構成主義の要素を残しつつ直方体のボリューム構成であり、前面ファサードにおいては垂直性が強調されたデザインとなっている。



(写真 13) ホテル No.4, 1933 年^{出典 24)}

1935 年に中心地から少し離れたキロフ通りにスポーツ学校 (写真 14) が建設されたが設計者は現段階で不明である。壁はレンガで充填されたラーメン構造で建設され^{文献 73)}、ホテル No.4 と同様の構成でファサード上には浅い凹凸が付けられておりアールデコ調のデザインが施されている。通りに対して斜めに配置されており、このような例は 1931 年から 1934 年に建設されたジャンプルーイシククルーシェフチェンコーチャイコフスキー通りで囲まれた街区に建設された 2 階建て 8 戸の住宅 6 棟があるが、メンディクロフによれば「地震波の方向を考慮したのではないか (筆者訳)」と推測されている^{文献 74)}。



(写真 14) スポーツ学校, 1935 年 (筆者撮影)

ソ連において 1920 年代は労働者クラブが映画館としての機能を果たしていたが^{文献 75)}、1928 年から 30 年にかけて設計機関などが新たに映画館の設計の研究を始めていった^{文献 76)}。

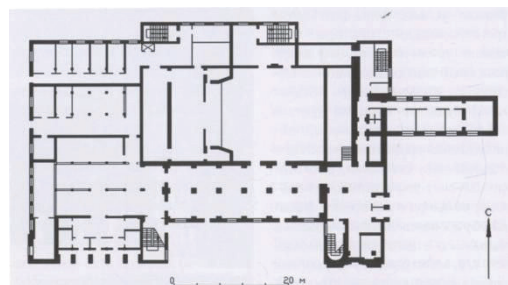
1936 年にスターリン通りとカーリーニン通りの交差点

に映画館「アラタウ」 (写真 15) がレニングラードの建築家 L.ルドネフ^{文献 77)}、V.トヴェルドフレボフ、Kh.ニゲルマンの設計によって建設されたが、サモイロフは彼らと共に V.カルムニコフの名を加えていることから^{文献 78)}カルムニコフが設計した映画館が標準設計として参考にされた可能性がある。V.カルムニコフはウズベキスタン出身の建築家でラドフスキー率いるモスクワの都市建築家協会^{注 12)}のメンバーでもあり 1933 年頃から映画館の設計に携わっていた^{文献 79)}。

建物は壁が発泡粘土コンクリートで充填されたラーメン構造で^{文献 80)}、ファサードに列柱、正面のフレーム状の縁にアールデコの装飾が適用されている。カルムニコフは 1930 年代前半に中央アジアで地域性を考慮した地区計画や遊牧民のユルタを变容させたプロジェクトを行っており、この映画館に彼のプロジェクトが関わっていたのであれば中央アジアの伝統建築の特徴でもあるペシュタクやイーワーンの構成が取り入れられた可能性も考えられる。平面構成 (図 13) としては北側や北東部の階段室部分に若干の突き出しが見られる。



(写真 15) 映画館「アラタウ」, 1936 年^{出典 25)}



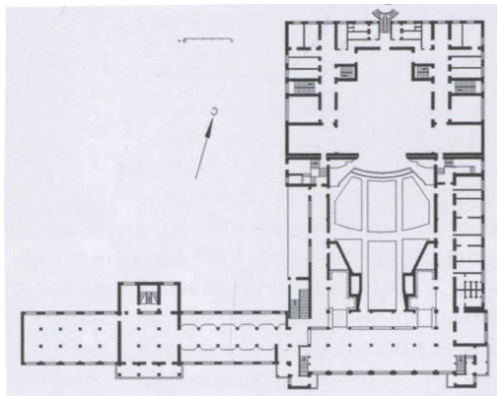
(図 13) 映画館「アラタウ」平面図^{出典 26)}

コムソモルスカヤ通りの東側の地区にアルマ・アタにおいて最初の文化宮殿 (写真 16) がレニングラードの建築家 D.フォミチェフ、E.ツェイツの設計によって 1936 年にレンガ造で建設された^{文献 81)}。メンディクロフは映画館「アラタウ」と文化宮殿に対して「構成主義から古典様式への過渡期の建築であり構成主義的なものと古典建

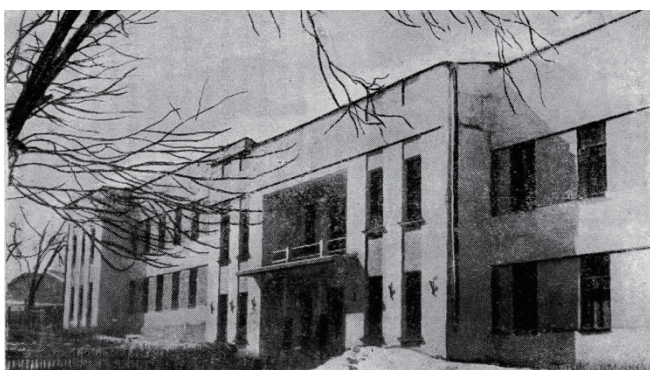
築の原型が組み合わされたものである（筆者訳）」とし、この文化宮殿においては「彫刻的要素などを加え建築的に豊かになった（筆者訳）」と評価した^{文献 82)}。平面図（図 14）において前面部は少し突き出しているが全体的に平滑な構成となっている。



（写真 16）文化宮殿，1936 年^{出典 27)}



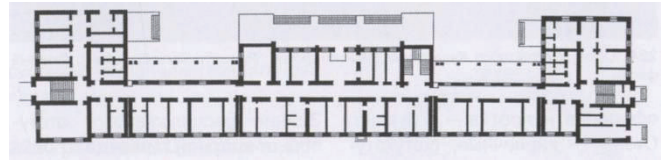
（図 14）文化宮殿平面図^{出典 28)}



（写真 17）産科病院 No.1，1936 年^{出典 29)}

1920 年代半ばから医療関連施設の建設が始まるようになったが^{文献 83)}、ジェルジェンスキー通りから一ブロック西のウズベク通り^{注 13)}ーキロフ通りの交差点にモスクワの建築家 M.イヴァノフの設計によって 1936 年に産科病院 No.1（写真 17）がレンガ造で建設された^{文献 84)}。前述のホテル No.4 のように構成主義の影響を残した様式でファサードに垂直性が強調されたアール・デコのな

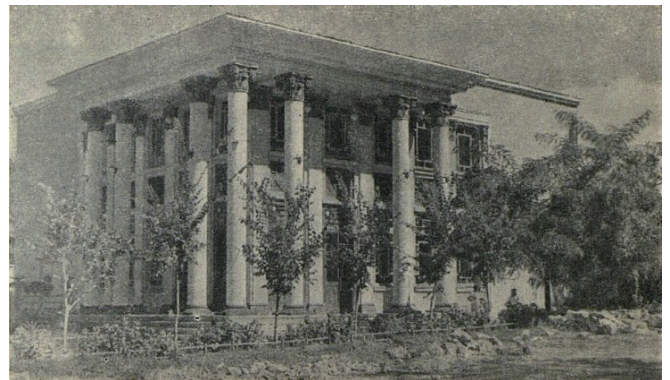
デザインで全体構成としてシンメトリーとなっている。平面計画（図 15）としてはかなり平滑となっているが両サイドの階段室が突き出している。



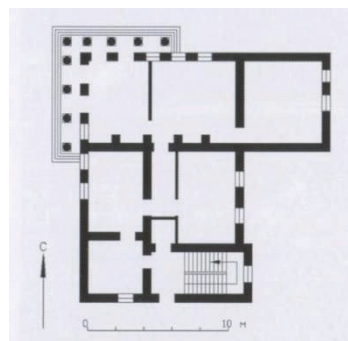
（図 15）産科病院 No.1 平面図^{出典 30)}

カリーニン通りとクナエフ通りの交差点に V.トヴェルドフレボフの設計によってカズピボ^{注 14)}（写真 18）が 1935 年にレンガ造で建設されたが、「社会主義カザフスタンの歴史と変容を描いたレリーフが飾られ（筆者訳）」^{文献 85)}、オーダーの柱頭にはカザフスタンで初めて渦巻き状の装飾が取り入れられた^{文献 86)}。

平面（図 16）は L 字で構成されその交差部にポルティコが設けられ、南側部分の階段室が少し突き出している。



（写真 18）カズピボ，1935 年^{出典 31)}

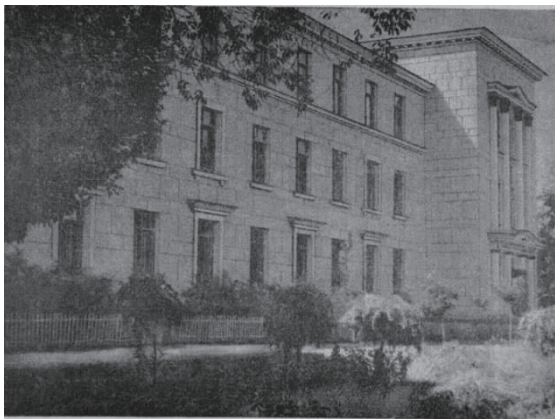


（図 16）カズピボ，一階平面図^{出典 32)}

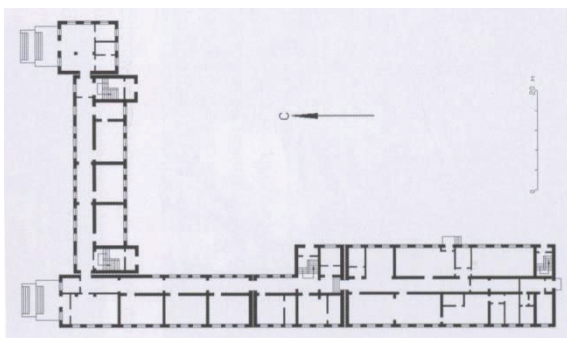
1930 年から 31 年にかけてソ連において一般教育が導入され新しい学校を建設する必要があり、それまでの教育システムに応じた学校は廃止され新たなプログラムに即した経済的な学校建設が求められた^{文献 87)}。1935 年 2 月のソ連人民委員会とボルシェボキソ連共産党中央委員会によって「小学校および中等学校」が決議され、決議

に従ってアルマ・アタでは三通りの学校が 1935 年から 1937 年にかけて建設されていた^{文献 88)}。前述の I.ヴォルシャニク的设计による学校 No.25 (写真 19) が標準設計に基づいて 1936 年に建設されたが^{文献 89)}、同設計者により No.33 が 1937 年に、No.55 が 1939 年に同様のデザインで他の場所にレンガ造で建設された^{文献 90, 91)}。この標準設計がヴォルシャニクによってアルマ・アタで開発されたものなのか、モスクワやレニングラードで他の建築家によって開発されたものなのかは明らかにされていない。

平面図 (図 17) を見ると建物は L 字型の構成で、北側部分の両サイドにエントランスが設けられておりその部分のファサードに列柱などの装飾が施されているが、平面構成としては正面性を強調した古典様式ではなく、前述の通信局に近い構成で階段室が突出すなど構成主義の要素が残されている。



(写真 19) 学校 No.25, 1936 年^{出典 33)}



(図 17) 学校 No.25 平面図^{出典 34)}

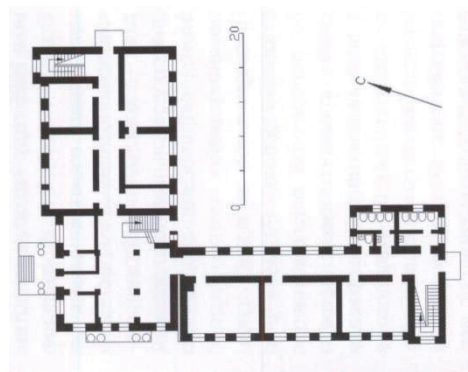
フルマノフ通りとマメイトフ通りの交差点に V.トヴェルドフレボフ的设计によって学校 No.1 (写真 20) が 1934 年にレンガ造で建設されたが^{文献 92)}、サモイロフは I.ヴォルシャニク、A.スレメノフ、V.ビリュコフによる設計で 1936 年としている^{文献 93)}。L 字型の平面構成で (図 18) 交差部にポルティコを設け端部の階段室が突き出し、東側部分は中廊下方式、南側部分は方廊下方式が採用され

ており二つの異なるブロックが組み合わされている。

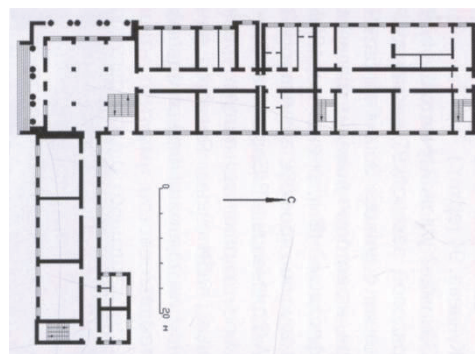
1937 年に E.ボリセンコ的设计によってレンガ造で建設された学校 No.28^{文献 94)}の平面図 (図 19) において二重壁以北部分は 1937 年の写真^{文献 95)}から判断すれば増築と考えられるが、学校 No.1 の平面図と比較すると平面構成において共通点が見受けられるが、サモイロフによれば学校 No.28 の設計は No.1 と同様 I.ヴォルシャニク、A.スレメノフ、V.ビリュコフに加えて V.トヴェルドフレボフとされておりどちらが実際の設計者なのか現段階では分からないが、前述のカズピボや学校 No.1 の平面構成と比較して共通点がみられるため V.トヴェルドフレボフの設計図が標準設計として用いられた可能性はあり得るが、モスクワやレニングラードの建築家による学校が標準設計として参照された可能性もあり得る。



(写真 20) 学校 No.1, 1934 年^{出典 35)}



(図 18) 学校 No.1 一階平面図^{出典 36)}



(図 19) 学校 No.28 一階平面図^{出典 37)}

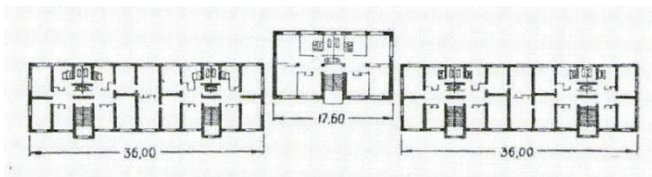
4.3 第二次五カ年計画における住宅建築

前述の一般計画においてスターリン通りーフルマノフ通りーゴーゴル通りーカリーニン通りで囲まれた3×6ブロックの区域に行政・文化施設の建設が計画され、これらの区域内に共産党幹部や政府指導者、治安当局者のための新たな3階建ての集合住宅が建設された^{文献96)}。住宅団地 No.1 から北側に住宅団地 No.2, 3, 4 (写真 21, 22) が Ya.スタンケビッチ, V.トヴェルドフレボフの設計により1935年から37年にかけて縦長の窓など構成主義のボリューム構成ではあるが隅石など古典主義の要素を加えてレンガ造^{文献97)}で建設されていた。

住宅団地 No.2 の平面図(図 20)において住宅団地 No.1 とは異なり幾分平滑になっているが階段室の部分は突き出し構成主義の手法が残されているがシンメトリーの構成となっている。住宅団地 No.4 の平面図(図 21)においてはL字型の構成ではあるが階段室の突き出しはなくなり平滑なファサードとなっている。



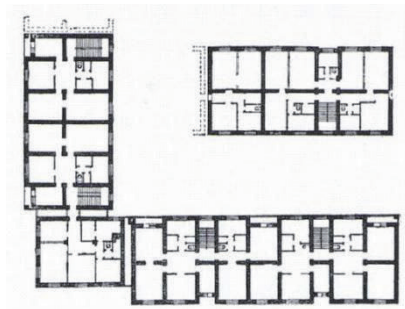
(写真 21) 住宅団地 No.2, 3, 1935 年^{出典 38)}



(図 20) 住宅団地 No.2 二階平面図^{出典 39)}



(写真 22) 住宅団地 No.4, 1937 年^{出典 40)}



(図 21) 住宅団地 No.4 二階平面図^{出典 41)}

前述の GPU のオフィスの北側に従業員の集合住宅群(写真 23)が技術者スクヴォルツォフの設計により1936年にレンガ造で建設されたが^{文献98)}、マリノフスカヤは別の著書で1931年とし^{文献99)}、サモイロフは設計者は不詳で1936-39年^{文献100)}、トゥヤクバエバは V. ブロフツェフ、技術者のスクヴォルツォフの設計により1936-39年としている^{文献101)}が前述の GPU の建設年の理由と同様に1936年以降が可能性としては高い。

縦長の窓など構成主義の要素を残しながら垂直性が強調されたアールデコの装飾がファサードに施されておりシンメトリーの構成となっている。2016年の筆者の目視であるがファサード前面部の階段室が少し突き出している。



(写真 23) GPU 従業員の集合住宅, 1936 年(筆者撮影)

5. おわりに

5.1 まとめ

第一次五カ年計画中にカザフスタンの首都がアルマ・アタに遷都されたことにより「大アルマ・アタ」が計画され、モスクワの M.ギンズブルグを中心に中央の建築家により総督府など行政施設等が鉄筋コンクリート造による構成主義の様式で建設されアルマ・アタの中心地が形成されていったが総督府においては地域的な特性が考慮された建築であった。L字型の平面構成の住宅団地 No.1 など、住宅建築も構成主義様式で建設された。

1922年にスターリンが権力を握った後1931年の党大会におけるカガノビッチによる発言や「モスクワの都市経済とソビエト連邦における都市経済の発展について」の決定、1932年のソビエト宮殿の設計競技や「文学および芸術組織の再編」の決議により構成主義が否定されは

じめ過去の建築遺産をどのように批判的に取り込み社会主義リアリズムを実現していくかが重要とされ、同年のジョルトフスキーによるモスクワのモホヴァヤ通りの住宅によりイタリア・ルネサンス建築が推奨された。

第二次五カ年計画において 1934 年頃からアルマ・アタの構成主義建築に関して鉄筋コンクリート造ではなく木造や壁がレンガ造で建設されていたが突如古典様式へと移行したのではなく、ファサード上にアール・デコの的な表現がみられるようになりサモイロフも「単純化された古典による構成主義の合成（筆者訳）」と指摘したが^{文献 102)}人民委員部の建物などシンメトリーの構成で建設された建築も出現し始めた。

1935 年の全連合創造的建築家会議にて構成主義を含む形式主義が否定され、社会主義リアリズム、過去の文化遺産の探求、アンサンブルについての議論が行われ、地元資材の活用等が推奨されていた。

1935 年以降新たに文化施設や学校、映画館、病院、住宅などが建設されていき、それらの中には列柱を配しシンメトリーの古典的な建築も建設されていたが、平面計画においては学校建築のように L 字型や階段室などの突き出しなど構成主義の要素を残した建築も建設された。

構成主義建築の要素が残されていた事について、これには当時の建築教育も理由の一つとして挙げられるのではないと思われる。本稿 4.1 で述べた 1935 年の会議において若手建築家の教育の必要性が議題として挙げたが、若手建築家は構成主義の手法しか知らず古典建築の方法を理解しておらず構成主義的な建築の構成に古典的な要素を付け加えていったのではないかと考えられる。

5.2 今後の課題

本稿 3 の都市計画においてミリューチンの影響が謳われたが実際にはどのような影響があったのか。当時構成主義者のイワン・レオニドフらによる線形都市とどのような関連性があったのか。

本稿 3 にて、ギンズブルグによりカザフスタン南部の気候的地域性を考慮した地域主義建築を実現したことは重要であったが、中庭などを適用した手法はアルマ・アタにおいて完全な中庭構成ではないが A.ゲゲーロ、D.クリチェフスキーによるレストラン No.1 を除きその後展開されなかった。もちろん総督府は機能的にも規模が大きく分棟配置により中庭構成が可能であったわけだが、その理由の一つに鉄筋コンクリートラーメン構造からレンガ造への構造材の変化があるのではないかと考えられる。本稿 4.1 で言及した軽工業・地場産業人民委員会によって地場産の材料の使用が推奨されていたが、レンガ造への移行はその推奨によって引き起こされたと考えられ、ラーメン構造ではピロティ形式の適用が可

能であるがレンガ造では極めてむつかしく中庭を設けるとレンガ造による壁構造では開口部が小さくなり外部からのアクセスが比較して限られ、総督府のような地域主義的平面計画が用いられなくなった可能性が考えられるが更なる検証が必要である。

本稿 3 で言及したトルキスタン・シベリア鉄道の管理局のパスにおいて一階部分がピロティのように見えるが実際に建設されたのか。もし実現していたのならばギンズブルグによる赤の広場のアンサンブルの構想がより明らかになると考えられる。

本稿 3 で言及した住宅団地 No.1 において 1932 年に全ての部分が建設されていたのか、それとも部屋の構成が異なる両翼部分は後から増築されたのか。また L 字型の部分は当初共同住宅として設計されたのか。

本稿 3 で言及した GPU のオフィスや NKVD 収容センターに関して著者により設計者や建設年代が異なり、また GPU のクラブ劇場においてはもし標準設計に基づいて設計が行われたのであればどのプロジェクトが参照されたのか、その標準プロジェクトどのように異なっているのか。

本稿 4.2 で言及したレストラン No.1 における木造ラーメン構造の柱の外部への露出は当時の建築界の状況の変遷に伴うものであったのか。

本稿 4.2 で言及した映画館「アラタウ」においては V.カルムィコフが実際に関わっていたのであれば彼が設計した映画館が標準設計として参照された可能性が高いが、どの映画館が参照されたのか。また標準プロジェクトと実際の建築はどのように異なっているのか。

本稿 4.2 で言及した学校建築においてヴォルシャックや他の建築家が設計した学校建築が標準設計としてその後用いられたのか。また L 字型をした学校 No.1, No.28 の設計者が著者によって異なっているが実際にはどれが正しいのか。またどの学校が標準設計として用いられるようになったのか。それはアルマ・アタではなくモスクワやレニングラードで開発された学校が標準設計として参照されたのか。

本稿 4.3 で言及した GPU 従業員の集合住宅の設計者や建設年代が著者によって異なるが実際にはどれが正しいのか。

本稿においては書籍に掲載された図面や写真、自ら撮影した写真から平面計画やファサードの分析を試みしたが、後に増築されたと思われる平面図も含まれておりオリジナルの図面を含む一次資料により更なる検証が必要である。

参考文献

- 1) Туякбаева Б. : Алматы Древний Средневековый колониальный советский этапы урбанизации (アルマ

- トイ ソビエトの都市化段階 古代・中世 植民地時代), World Discovery, p.15, June, 2008
- 2) Капанов А. К., Баймагамбетов С. К. : Алматы: архитектура и градостроительство (アルマトイ : 建築と都市計画) , DIDAR Publishing Co., p.135, 1998
 - 3) 宇山智彦, 藤本透子 : カザフスタンを知るための 60 章, 明石書店, p.150, 2015 年 4 月
 - 4) Капанов А. К., Баймагамбетов С. К. : op.cit., pp.135-137
 - 5) Глаудинов Бекримжан : Развитие Архитектуры Казахстана в Эпоху Социализма (社会主義時代のカザフスタンにおける建築の発展) , Казахской головной архитектурно-строительной академии, p.17, 2019
 - 6) Туякбаева Б. : op.cit., p.16
 - 7) Ibid., p.163
 - 8) Малиновская Е.Г. : Памятник современной архитектуры (近代建築の記念碑) , Алматы: ARK Gallery, pp.19-23, April, 2018
 - 9) Туякбаева Б. : op.cit., p.19
 - 10) Глаудинов Б.А., Сейдалинов М.Г., Карпыков А.С. : Архитектура Советского Казахстана (ソビエト・カザフスタンの建築) , Стройиздат, p.39, April, 1987
 - 11) Глаудинов Б.А., Сейдалинов М.Г., Карпыков А.С. : op.cit., pp.39-40
 - 12) Малиновская Е.Г. : op.cit., p.38
 - 13) Гинзбург М. Я. : Живой Восток. Общий Вид Города “Старая Бухара“, Современная архитектура. 1926. № 5-6 (東に住む. 市内全景「旧ブハラ」, 近代建築 1926. No.5-6) , Госиздат, p.113, 1926 ; reprint, TATLIN, 2010
 - 14) Ibid., pp.113-114
 - 15) Веснин А. А., Гинзбург М. Я. : Современная архитектура.1928. № 3 (近代建築 1928 . No.3) , Госиздат, p.77, 1928 ; reprint, TATLIN, 2010
 - 16) Хан-Магомедов С.О. : Сто Шедевров Архитектурного Авангарда (前衛建築の傑作 100 選) , Едиториал УРСС, p.284, 2005
 - 17) Малиновская Е.Г. : op.cit., p.43
 - 18) Гинзбург М. Я. : НАЦИОНАЛЬНАЯ АРХИТЕКТУРА НАРОДОВ СССР , Современная архитектура. 1926. № 5-6 (ソ連国民の国家建築, 近代建築, 1926. No. 5-6) , Госиздат, pp.114-115, 1926 ; reprint, TATLIN, 2010
 - 19) Архитектура СССР 1933 №.1 (ソ連の建築 1933 No.1) , Стройиздат, p.35, 1933
 - 20) Барагин Д.Д., Белоцерковский И.И. : Архитектура городов СССР. - Алма-Ата (ソ連の都市の建築 - アルマ・アタ) , Государственное издательство архитектуры и градостроительства, p.12, 1950
 - 21) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г.-Рюнтю, Проскурин В.Н. : СВОД памятников истории и культуры г.Алматы (年代記 アルマトイの歴史・文化的記念碑) , Казак энциклопедиясы, p.273, 2006
 - 22) Ibid., p.273
 - 23) Ibid., p.313
 - 24) Малиновская Е.Г. : op.cit., p.32
 - 25) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.135
 - 26) Малиновская Е.Г. : op.cit., p.196
 - 27) Туякбаева Б. : op.cit., p.191
 - 28) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.228
 - 29) Ibid., p.277
 - 30) Ibid., p.215
 - 31) Ibid., p.278
 - 32) Ibid., p.215
 - 33) Ibid., p.134
 - 34) Мендикулов М. М. : Архитектура города Алма-Аты. (アルマ・アタ市の建築) , Издательство Академии наук Казахской ССР, p.81, 1953
 - 35) Сарумова М.Н. : Алма-Ата. Планировка и реконструкция (アルマ・アタ 計画と再建) , Казгосиздат, p.43, 1937
 - 36) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.261
 - 37) Былинкин Н.П., Калмыкова В.Н., Рябушин А.В., Сергеева Г.В. : История советской архитектуры (1917-1954 гг.) (ソビエト建築史 (1917-1954)) , Стройиздат, p.46, 1985
 - 38) Баранов Н.В. : Всеобщая история архитектуры. Том 12. Книга 1. Архитектура СССР (建築の一般的な歴史, 第12巻, 第1冊, ソ連の建築) , Стройиздат, p.206, 1975
 - 39) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.322
 - 40) Туякбаева Б. : op.cit., p.168
 - 41) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.216
 - 42) Самойлов К.И. : Архитектура Казахстана XX века (Развитие архитектурно-художественных форм) (20 世紀のカザフスタンの建築 (建築と芸術形式の発展)) , М-Ари, p.143, 2004
 - 43) Малиновская Е.Г. : op.cit., p.23
 - 44) Самойлов К.И. : op.cit., p.142
 - 45) Хан-Магомедов С.О. : Владимир Кринский (ウラジーミル・クリンスキー) , Фонд "Русский авангард", p.153, 2008
 - 46) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.305
 - 47) Архитектура СССР 1972 №.12, Стройиздат, p.42, 1972
 - 48) Малиновская Е.Г. : op.cit., p.20
 - 49) リシャット・ムラギルディン: ロシア建築案内,

- TOTO 出版, p.108, 2002 年 11 月
- 50) Глаудинов Б.А., Сейдалинов М.Г., Карпыков А.С. :
op.cit., p.51
- 51) Ibid., p.51
- 52) Кеменов В.С. : Архитектура клубного здания. 10
рабочих клубов Москвы (クラブ建築 モスクワの労働者クラブ 10 棟) , ОГИЗ — ИЗОГИЗ. Москва, p.1,
1932
- 53) Архитектура СССР 1934 №.1, Стройиздат, p.3, 1934
- 54) 八束はじめ : ロシア・アヴァンギャルド建築, 株式会社 INAX, p.426, 1993 年 11 月
- 55) Архитектура СССР 1982 №.6, Стройиздат, p.52, 1982
- 56) Архитектура СССР 1947 №.17-18, Стройиздат, p.23,
1947
- 57) Барагин Д.Д., Белоцерковский И.И. : op.cit., p.12
- 58) Архитектура СССР 1982 №.6, Стройиздат, p.51, 1982
- 59) Архитектура СССР 1933 №.1, Стройиздат, pp.1-2,
1933
- 60) Ibid., p.61
- 61) Архитектура СССР 1934 №.6, Стройиздат, pp.19-23,
1934
- 62) Былинкин Н.П., Калмыкова В.Н., Рябушин А.В.,
Сергеева Г.В. : op.cit., p.115
- 63) Самойлов К.И. : op.cit., p.96
- 64) Былинкин Н.П., Калмыкова В.Н., Рябушин А.В.,
Сергеева Г.В. : op.cit., p.115
- 65) Ibid., p.13
- 66) Архитектура СССР 1935 №.7, Стройиздат, pp.1-2,
1935
- 67) Ibid., pp.3-4
- 68) Ibid., p.4
- 69) Броницкая А., Малинин Н. : Алма-ата :
Архитектура Советского Модернизма 1955-1991 (アルマ・アタ :ソビエト・モダニズムの建築 1955-1991),
Музей современного искусства «Гараж», p.50, 2018
- 70) Гегелло А. И. : Из творческого опыта : Возникновение
и развитие архитектурного замысла (創造的な経験から: 建築デザインの出現と発展) , Государственное
издательство литературы по строительству, архитектуре и строительным материалам, p.363, 1962
- 71) Малиновская Е.Г. : op.cit., p.70
- 72) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.214
- 73) Ibid., p.317
- 74) Мендикулов М. М. : op.cit., p.80
- 75) Хан-Магомедов С.О. : Виктор Калмыков (ヴィクトル・カルムイコフ) , Фонд "Русский авангард", p.141,
2011
- 76) Щербачев В.В. : Кинотеатры (Архитектура страны
Советов) (映画館(ソビエト連邦の建築)) ,
Издательство Академии архитектуры. Москва, p.5,
1948
- 77) Малиновская Е.Г. : op.cit., p.76
- 78) Самойлов К.И. : op.cit., p.154
- 79) Хан-Магомедов С.О. : Виктор Калмыков, op.cit., p.143
- 80) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.306
- 81) Ibid., pp.314-315
- 82) Мендикулов М. М. : op.cit., p.60
- 83) Глаудинов Б. : Архитектура Советского Казахстана
(ソビエト・カザフスタンの建築) , Стройиздат, p.24,
1974
- 84) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.295
- 85) Ibid., p.292
- 86) Самойлов К.И. : op.cit., p.212
- 87) Глаудинов Б. : op.cit., p.23
- 88) Ibid., pp.23-24
- 89) Мендикулов М. М. : op.cit., p.65
- 90) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.318
- 91) Ibid., p.321
- 92) Ibid., p.316
- 93) Самойлов К.И. : op.cit., p.181
- 94) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.319
- 95) Сарумова М.Н. : op.cit., p.30
- 96) Туякбаева Б. : op.cit., p.183
- 97) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.269
- 98) Ibid., p.266
- 99) Малиновская Е.Г. : op.cit., p.22
- 100) Самойлов К.И. : op.cit., p.163
- 101) Туякбаева Б. : op.cit., p.168
- 102) Самойлов К.И. : op.cit., p.857

写真・図版出典

- 1) Глаудинов Бекримжан : Развитие Архитектуры
Казахстана в Эпоху Социализма, Казахской головной
архитектурно-строительной академии, p.17, 2019
- 2) Малиновская Е.Г. : Памятник современной архитек-
туры, Алматы: ARK Gallery, p.47, April, 2018
- 3) Веснин А. А., Гинзбург М. Я. : Современная
архитектура. 1928. № 3, Госиздат, p.75, 1928 ; reprint,
TATLIN, 2010
- 4) Ibid., p.77
- 5) Ibid., p.75
- 6) Гинзбург М. Я. : НАЦИОНАЛЬНАЯ АРХИТЕКТУРА
НАРОДОВ СССР , Современная архитектура. 1926. №
5-6, Госиздат, pp.114-115, 1926 ; reprint, TATLIN, 2010
- 7) Глаудинов Б. : Архитектура Советского Казахстана,
Стройиздат, p.52, 1974

- 8) Барагин Д.Д., Белоцерковский И.И. : Архитектура городов СССР. - Алма-Ата, Государственное издательство архитектуры и градостроительства, p.43, 1950
- 9) Глаудинов Б. : op.cit., p.51
- 10) Журнал «Строительство Москвы»1926. № 4 (ジャーナル「モスクワの建設」1926. No.4) , Московский совет рабочих, крестьянских и красноармейских депутатов, p.26, 1931
- 11) Глаудинов Б. : op.cit., p.31
- 12) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г.-Рюнтю, Проскурин В.Н. : СВОД памятников истории и культуры г.Алматы, Казак энциклопедиясы, p.135, 2006
- 13) Ibid., p.278
- 14) Барагин Д.Д., Белоцерковский И.И. : op.cit., p.37
- 15) Туякбаева Б. : Алматы Древний Средневековый колониальный советский этапы урбанизации, World Discovery, p.195, June, 2008
- 16) Мендикулов М. М. : Архитектура города Алма-Аты., Издательство Академии наук Казахской ССР, p.197, 1953
- 17) Малиновская Е.Г. : Репрессированная архитектура – сталинские новостройки, творчество и судьбы архитекторов (抑圧された建築 - スターリン主義の新しい建築, 創造性と建築家の運命)) , Алматы: ARK Gallery, p.414, 2018
- 18) Хан-Магомедов С.О. : Владимир Кринский, Фонд "Русский авангард", p.153, 2008
- 19) Мендикулов М. М. : op.cit., p.120
- 20) Гегелло А. И. : Из творческого опыта : Возникновение и развитие архитектурного замысла., Государственное издательство литературы по строительству, архитектуре и строительным материалам, p.93, 1962
- 21) Архитектура СССР 1934 №.6, Стройиздат, p.18, 1934
- 22) Гегелло А. И. : op.cit., p.365
- 23) Ibid., p.364
- 24) Сарумова М.Н. :Алма-Ата. Планировка и реконструкция, Казгосиздат, p.36, 1937
- 25) Мендикулов М. М. : op.cit., p.160
- 26) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.306
- 27) Мендикулов М. М. : op.cit.,p.121
- 28) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.315
- 29) Сарумова М.Н. : op.cit.,p.34
- 30) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.295
- 31) Барагин Д.Д., Белоцерковский И.И. : op.cit., p.33
- 32) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.292
- 33) Мендикулов М. М. :op.cit., p.195
- 34) Нурпеисов М.М., Малиновская Е.Г. : op.cit., p.318
- 35) Ibid., p.317

- 36) Ibid., p.317
- 37) Ibid., p.319
- 38) Мендикулов М. М. : op.cit., p.192
- 39) Ibid., p.191
- 40) Ibid., p.194
- 41) Ibid., p.193

注

- 1) ポスト構成主義とはロシア語でпостконструктивизмと表記されるが、1996年のハーン・マゴメドフの著書「Архитектура советского авангарда (ソヴィエト前衛建築)」においてソビエト宮殿の設計競技以降1932年から1936年にかけて建設された建築に対してこの用語が使われた。
- 2) 現在のパンフィロフ公園。
- 3) 後にトレービ通りと名称が変更。
- 4) 後にスターリン通りと名称が変更。
- 5) 当時A.シュエセフはモスクワ建築協会の議長を務めていた。
- 6) 水盤は実現されなかった。
- 7) ペシュタクとはロシア語でпештак, 英語では peshtak もしくは pishtak と表記され、ペルシア・イスラム建築に見られる建物正面の尖頭アーチが用いられた門型の方形部分の事。
- 8) 後にカバンバイ・バティル通りと名称が変更。
- 9) 後にナウリツバイ・バティル通りと名称が変更。
- 10) この論文で資本主義国家の建築界における過去の建築様式の復興への傾向について述べられており特にファシストドイツを強調しているため、ブルジョア折衷主義とはファシストドイツの建築を指しているものと考えられる。
- 11) 後にカラサイ・バティル通りと名称が変更。
- 12) 都市建築家協会はロシア語でАРУと略して表記される。
- 13) 後にセイフリナ通りと名称が変更。
- 14) 当時カザフスタンの国営ビール企業。

参考文献, 写真・図版は二次資料からの転載

(受理：令和6年5月14日)